

平成28年度（第61期）事業報告

自 平成28年4月 1日
至 平成29年3月31日

1. 会員の異動状況

会員の種類		本期末会員数	前期末会員数	差引増減
名誉会員		13	13	0
正会員		2483	2478	5
学生会員		152	148	4
維持 会 員	S 級	4	2	2
	A 級	8	11	▲3
	B 級	6	6	0
	C 級	13	12	1
	D 級	14	14	0
	E 級	116	110	6
	合計	161	155	6
公共会員		12	11	1

2. 事業の状況

(1) 行事

行事名	講演件数	参加者数	期日	場所
第7回日中トライボロジー先端フォーラム	19	74	平成28.4.9-11	奈良
トライボロジー会議 2016 春 東京	197	808	平成28.5.23-25	東京
第60期通常総会・特別フォーラム	2	141	平成28.5.24	東京
平成27年度評議委員会	0	21	平成28.5.24	東京
添加剤技術研究会企画講座	8	84	平成28.6.23	東京
第450回トライボロジー懇談会	3	21	平成28.6.24	神戸
第47回トライボロジー入門講座	8	93	平成28.7.8-9	東京
トライボロジー会議 2016 秋 新潟	251	604	平成28.10.12-14	新潟
第9回トライボロジー入門西日本講座	8	37	平成28.10.27-28	名古屋
サステイナブルトライボロジー会議2016 奄美大島	9	101	平成28.10.31-11.2	奄美
第2回トライボロジー国際技術交流会	4	53	平成28.11.3-4	タイ・バンコク
第9回トライボロジースキルアップ講座	4	50	平成28.11.25	東京
第9回トライボロジーテーマ別基礎講座	3	48	平成28.12.2	東京
第451回トライボロジー懇談会	6	22	平成28.12.8	東京
第7回トライボロジー秋の学校 in 愛知	2	79	平成28.12.8-9	愛知
メンテナンストライボロジー研究会シンポジウム	6	91	平成29.3.8	東京
第452回トライボロジー懇談会	1	14	平成29.3.10	東京

- ・ トライボロジー会議では、研究発表の実用化技術を発表しやすくする発表分類に改め、企業の発表奨励に取り組んだ。
- ・ 第7回日中トライボロジー先端フォーラム、第1回日韓トライボロジーシンポジウム等、国際事業に注力した。
- ・ 日系海外現地法人で働くエンジニアの技術交流機会の提供を目的に、第2回トライボロジー国際技術交流会をタイ・バンコクで開催した。
- ・ 若いトライボロジストの活動育成と研究発表増強を目的として、サステイナブルトライボロジー会議 2016 奄美大島および第7回トライボロジー秋の学校 in 愛知を開催した。

(2) 会誌

- ・ 会誌「トライボロジスト」、英文電子ジャーナル「Tribology Online」を発行した。
- ・ 「トライボロジスト」は12回発行。ページ数本文 938 ページ (61 巻 4 号～62 巻 3 号)。
- ・ 特集として「生物から学ぶトライボロジー」、「建設機械技術のトライボロジー」、「電気に関わるトライボロジー」、「トライボロジーに関する振動現象」、「現象論から見たトライボロジー」、「技術者のための倫理と知的財産」、「創立 60 周年記念 トライボロジー技術の進展と将来展望 (1)」、「創立 60 周年記念 トライボロジー技術の進展と将来展望 (2)」、「雪と氷のトライボロジー」、「安全・安心な生活を支えるトライボロジー」、「トライボロジーを支える分析技術」、「トライボロジー分野の技術開発に向けた数値解析」を刊行した。
- ・ 「随筆 トライボ草子」、「トライボロジー・ナウ トライボロジー海外体験記 ―ア라운드・ザ・ワールド―」、「入門講座 トライボロジー教室」、「技術資料 トライボツール開発記―ブレイクスルーへの挑戦―」の連載を継続している。

(3) 研究会

第3種研究会「トライボダイナミクス研究会」を新設し、今期は30の研究会が活動を行った。

研 究 会 名	種 別	回 数	場 所
オープンイノベーションを目指した技術動向調査	第1種	4	東京
添加剤技術	第2種	5	東京
固体潤滑	第2種	4	東京, 新潟, 山口, 神奈川
グリーズ	第2種	4	東京, 静岡
転がり軸受寿命	第2種	2	東京
エンジン潤滑	第3種	3	東京
転がり疲れ	第3種	3	神奈川, 三重, 京都
シール	第3種	2	東京, 横浜
鉄道のトライボロジー	第3種	1	千葉
ファイル記憶のトライボロジー	第3種	1	東京
摩 耗	第3種	2	東京, 千葉
メンテナンス・トライボロジー	第3種	2	滋賀, 東京
塑性加工のトライボロジー	第3種	2	愛知, 東京
トライボケミストリー	第3種	2	北海道, 東京
自動車のトライボロジー	第3種	4	愛知, 福井

アルミニウムのトライボロジー	第3種	1	愛知
高分子材料のトライボロジー	第3種	3	東京
“超”を目指す軸受技術	第3種	3	京都
スペーストライボロジー	第3種	1	埼玉
エコマシニングとトライボロジー	第3種	0	—
分子シミュレーションのトライボロジーへの応用	第3種	1	神戸
変速機のトライボロジー	第3種	2	東京
機能性コーティングの最適設計	第3種	1	秋田
テクスチャリング表面のトライボロジー	第3種	2	鹿児島, 仙台
エロージョンとその応用	第3種	3	新潟, 鹿児島, 福井
境界潤滑	第3種	1	新潟
工作機械のトライボロジー	第3種	3	東京
トライボダイナミクス	第3種	3	神奈川, 鳥取, 新潟
日本海トライボロジー	地区	1	福井
北海道トライボロジー	地区	0	—

(4) 主な取り組み

学会のガバナンス・コンプライアンスの強化、学会の活性化を目的として、以下に取り組んだ。

- ・ 学会創立 60 周年記念事業として、論文を早期公開できるように電子版トライボロジスト誌を科学技術振興機構（略称 JST）が提供する J-STAGE へ公開、学会ホームページのデザイン変更、学会の 60 年のアクティビティをまとめた和文および英文の記念冊子の発行、会誌創刊号から 60 年分の論文・解説などの記事および入門講座の動画などを収録した DVD の発行を行った。
- ・ 役員の人材育成と重点課題への継続的な取り組みを検討した。
- ・ 高い透明性を含む予算執行のルールを遵守し、予算決定プロセスの組織的合意形成と情報開示を徹底した。
- ・ 学会規則の総整備と現行ガバナンスとの整合を目的として、規程や内規を全て調査・分析し、整備・改善と定期メンテナンスに着手した。
- ・ 学会の目指すべき中・長期計画とロードマップを策定し、各委員会でのシームレスな取り組みと委員会間での協力事項の合意を図った。取り組みの客観評価と次年度へのフィードバックによる継続的進化を図るため、各活動の目標値を設定し、理事会での PDCA 体制を整備した。
- ・ コンプライアンス教育の一環として、トライボロジー会議 2016 春東京で「第 3 回倫理シンポジウム」を開催し、高まる要求レベルの共有、取り組み活動の紹介を行った。
- ・ 会員の声を反映した学会運営を図るため、アンケート調査を継続して対策実行計画に盛り込んだ。
- ・ 増強活動を強化し、会員数の目標値を定めて生産性の高い活動方針を立てた。
- ・ 会誌の印刷ミスの撲滅、出版費用の低減、出版までの時間削減を目的として、解説原稿作成要領および校閲要領を見直すとともに、出版社のベンチマークと評価を実施した。
- ・ 投稿論文の量・質の向上を目的として、会誌「トライボロジスト」と英文電子ジャーナル「Tribology Online」との連携強化策を議論し、第 62 期より校閲委員会と英文オンラインジャーナル編集委員会を統合することとした。
- ・ 「技術論文」を創設し、主として工業的有用性を主張点とした論文の受け付けを開始した。

- ・ より受講者が理解しやすい講座開催を目指すためのカリキュラム見直しに着手し、新設講座の計画作成を推進した。
- ・ 研究会の活性化と区分明確化を目的として、研究会の延長基準を内規に盛り込むと共に、区分名および定義の見直しを図った。
- ・ 表彰対象の選考において、選考者に過度の負担がかからないように、表彰委員会と関連委員会との連携を強化した。さらに、功績賞選考の参考資料に関するマニュアルを整備した。
- ・ 海外の学会活動との連携を考慮した国際企画を検討し、次々回 WTC に向けた取り組み方針を検討した。